



未来を彩る 岩手の芸術 みんなで刻もう 新たな歴史

第70回

岩手芸術祭

総合フェスティバル in 気仙

作詞: 田原耕二
補作詞: 岩手県民の歌審査委員会
作編曲: 中田喜直

岩手県民の歌 (昭和39年制定)

しらくもの うかぶ はてまで
 はろぼろと 蒼き(あおき) 国原(くにばら)
 かぎりなき 未来を こめて
 岩手 岩手 ふるさと 岩手
 とこしえに 若き 大地よ
 みちのくの 文化 かぐわし
 金色(こんじき)に 咲ける この国
 誇らかに いまに 伝えて
 岩手 岩手 ふるさと 岩手
 胸ふかく 想う その名よ
 山なみの きわも さやかに
 染めなせる あかねの 光
 かがやける 明日を 徴(しる)して
 岩手 岩手 ふるさと 岩手
 大空に 描く 望みよ

ごあいさつ



一般社団法人岩手県芸術文化協会
第70回岩手芸術祭実行委員会

会長 柴田和子

岩手県民の文化芸術の祭典として定着しております岩手芸術祭は、昭和22年に第1回が開催されて以来これまで回を重ね、今年度は第70回目の節目を迎えることとなりました。これもひとえに県民の皆様の御理解、御支援の賜と深く感謝申し上げます。

岩手芸術祭の開幕に合わせて開催している岩手芸術祭のフェスティバルは、これまで岩手県民会館での開催が恒例となっておりましたが、今年度から、地域における鑑賞機会の提供や地域の文化催事との連携を行うことで、岩手芸術祭の県民総参加的な盛り上げを図り、岩手の文化芸術の魅力を総合的に発信していくために、岩手県の主催で、盛岡市以外の地域でも開催することになりました。

今回、本フェスティバルが気仙地区で開催されることにより、豊かな文化の香り高い気仙地域の芸術文化が、今後、更に発展、振興されますよう期待しております。

岩手芸術祭の優れた公募作品や県内・地元の優れた芸術団体の競演をごゆっくりご鑑賞いただきますようお願い申し上げます。

結びに、本事業の開催にあたり、御尽力くださいました、気仙地区芸術文化協会連絡協議会をはじめ、関係者各位に心から感謝を申し上げ、ご挨拶いたします。

主催

岩手県 岩手県文化振興事業団 岩手日報社
IBC岩手放送 テレビ岩手 めんこいテレビ 岩手朝日テレビ エフエム岩手
気仙地区芸術文化協会連絡協議会 陸前高田市教育委員会
大船渡市教育委員会 住田町教育委員会

後援

盛岡市 NHK盛岡放送局
盛岡タイムス 胆江日日新聞社 岩手日日新聞社 東海新報社 FMねまらいん

協力

運営補助 ◆ 岩手県立大船渡高等学校

企画

岩手芸術祭開幕フェスティバル企画運営委員会 (岩手県芸術文化協会)

構成・演出	上田 次郎
プロデューサー	藤川 智美
舞台監督	近藤 英一
演出補佐	大沼 まゆみ (岩手県洋舞協会)
舞台美術	小笠原 卓雄 (岩手芸術祭美術展現代美術部門)
合唱コーディネーター	太田代 政男 (岩手県合唱連盟)
民俗芸能コーディネーター	藤沢 清美 (岩手県民謡協会)

問い合わせ先

岩手県芸術文化協会 TEL 019-626-1202

携帯電話の電源はお切りになるか、マナーモードにお切り替えてください。
主催者の許可のない撮影・録音は禁止させていただきます。
大ホール客席での飲食は禁止となります。

2018年1月20日 土
開場13:00 開演13:30
リアスホール(大船渡市民文化会館)大ホール

プログラム

司 会：甲斐谷 望（IBC岩手放送アナウンサー）	
▼「盛岡芸妓の踊り」	岩手邦楽協会

- (1) 曲目1／「常磐津 松島」
作詞は河竹黙阿弥、作曲は六世岸澤武佐。明治17年に景勝地として名高い松島を題材に作曲。金屏風の前でうたわれる祝い唄ともいわれています。

曲目2／長唄「南部音頭」
盛岡の名勝地、石割り桜や高松の池の花盛りを唄い、名産である、南部紫紺染めの手拭を持って踊ります。

曲目3／「金山踊りからめ節」
岩手の山々には沢山の鉱脈があり、金がとれました。その好況を「大儲利」（大量の質の良い鉱脈が見つかり、景気が良くなったこと。）といました。前掛、紅白のたすきをして、「からめ、からめ」（仕事に精を出し働けという意味。）とはやし、景気が良くなる様にとの思いを込められており、大変めでたく、郷土色豊かな踊りとなっております。

- (2) 出演者

てる子、よう子、治子、あき子、てい子、富勇、とも千代、喜久丸、まり佳
藩政時代から続き、伝統芸能を継承する盛岡芸妓の「ひよ妓（半玉さん）」の喜久丸、まり佳と先輩姐さん7名によるお座敷芸です。

▼「主催者挨拶」	上田 幹也 岩手県文化スポーツ部長
----------	-------------------

▼「第70回岩手芸術祭記念詩」	岩手県詩人クラブ
-----------------	----------

- (1) 作者／岩手県詩人クラブ 松崎みき子
今年度70回目を迎えた岩手芸術祭、多くの先人たちが道を拓いてきています。その道を受け継ぎ次代へと渡して行く。新しい表現は其中で生まれ育っています。そうした「道」をテーマに記念詩は作られました。

- (2) 朗読／甲斐谷 望（IBC岩手放送アナウンサー）

- (3) 演奏／ヴァイオリン演奏 齊藤 弦（いわてフィルハーモニー・オーケストラ）
チェロ演奏 三浦 祥子（いわてフィルハーモニー・オーケストラ）

▼「弦楽による南部民謡」	岩手県民謡協会	岩手県管弦楽連盟
--------------	---------	----------

- (1) 南部牛追唄／中里福次郎
岩手県民謡協会 副会長
昭和62年第2回南部牛追唄全国大会優勝 他多数

- (2) 外山節／三上 紀子
平成24年(財)日本民謡協会全国大会 成年部優勝 国土交通大臣賞
第53回日本郷土民謡協会民謡民舞全国大会 民舞の部 内閣総理大臣賞
第54回日本郷土民謡協会民謡民舞全国大会 民謡の部 内閣総理大臣賞 他多数

- (3) 弦楽／いわてフィルハーモニー・オーケストラメンバーによる弦楽四重奏
ヴァイオリン 山口あうい 齊藤 弦
ヴィオラ 藤澤 英子
チェロ 三浦 祥子

▼「ジャズダンス・男子新体操」	スタジオ DANCE ONE（岩手県洋舞協会）	新☆男塾
-----------------	-------------------------	------

- (1) 演 目／「命は未来へ」
現代社会、ユニークなパフォーマンスが躍動。実績を積んできたジャズダンスのスタジオDANCE ONEに盛岡市立高等学校男子新体操部OBによる「新☆男塾」がコラボレーションします。

- (2) 出演者

◆スタジオ DANCE ONE
及川 史子 金田 樹奈 菅野 祐美 関 清花
高萩 由衣 辻元 爽羽 プラネン新那 水野 順子
本宮佳央理 矢内えり子

- ◆新☆男塾（盛岡市立高等学校男子新体操部OB）
小笠原京哉 片方 郁太 小野寺 良

▼「チンドン・長安寺太鼓」	チンドン寺町一座	長安寺太鼓保存会
---------------	----------	----------

- (1) 演目1／「六法」（チンドン）
演目2／「三陸グルメの紹介」（チンドン）
演目3／チンドンと太鼓のコラボレーション「ドンドレミと千鳥」（チンドン・長安寺太鼓）
演目4／「まつり太鼓と鼓狂い」（長安寺太鼓）

- (2) 出演者

◆チンドン寺町一座
大船渡市日頃市町長安寺地域で、懐かしいチンドン屋さんを始めようと、東京の菊乃家親方に指導を受けチンドン寺町一座の旗揚げを行ないました。地域の活性化と多くの人々に夢と希望と元気を与え、明るく楽しく、生涯現役を合言葉に日々練習に励んでいます。チンドンコンクール素人部門で日本一に輝いています。

- ◆長安寺太鼓保存会

昭和47年太鼓保存会結成。和太鼓の名門・東京神田助六太鼓に御教示をお願いし、気仙地方にふさわしい曲目を創作して頂いて御指導を受け、長安寺の郷土芸能として発足。独自に創作した曲目を加えての演奏は高い評価を得ています。

▼「麦播き踊り」	天嶽芸能保存会
----------	---------

- (1) 演 目／「麦播き踊り」
豊作を願う踊り。①畑作り ②種まき ③土かけ ④畝踏み ⑤草とり ⑥麦刈り ⑦脱穀 ⑧もみふき ⑨俵詰め ⑩俵かつぎ ⑪祝踊り

- (2) 出演者／天嶽芸能保存会

保存会は地区民全員が会員。昭和22年頃に、遠野から木の伐採作業に来ていた方から婦人達が教えられ婦人会の踊りとして継承されてきました。平成11年頃に保存会に引き継がれ現在に至っています。麦播きから取り入れ、そして祝い踊りと豊作を願う踊りでもあります。

▼「モダンダンス・金山太鼓」	佐比内金山太鼓保存会	金田尚子舞踊研究所（岩手県洋舞協会）
----------------	------------	--------------------

- (1) 演 目／大太鼓とモダンダンスのコラボレーション
「魂極る風に（たまさわるかぜに）」

- (2) 出演者

◆佐比内金山太鼓保存会 高橋 環
佐比内は、かつて日本有数の金山として知られていました。「歴史を太鼓にのせて活ある里づくり」をテーマに「地域の子供たちに文化を」と設立された佐比内金山太鼓。本ステージでは、大太鼓一つがモダンダンスとコラボレーションします。

- ◆金田尚子舞踊研究所

杉村 香菜（岩手医科大学薬学部5年） 花坂 茉椰（岩手大学工学部1年）
関根 和子（盛岡白百合学園高等学校3年） 村井七海子（盛岡白百合学園高等学校2年）
柏崎 郁乃（盛岡第一高等学校1年） 高橋 彩乃（不來方高等学校1年）
長澤ほのか（盛岡第二高等学校1年） 三浦 千明（盛岡第一高等学校1年）

▼「ユネスコ無形文化遺産登録 国指定重要無形民俗文化財 岳神楽・ジャズダンス」	岳神楽保存会	スタジオ DANCE ONE（岩手県洋舞協会）	新☆男塾	盛岡市立高等学校男子新体操部
---	--------	-------------------------	------	----------------

- (1) 演目1／「五穀舞」

天照大神は、豊葦原の中津国に保食神（うけもちのかみ）がいと聞き月読命を遣わします。保食神は口からたくさんのごちそうを出して歓待しますが、月読命は汚らしいと怒り、保食神を殺してしまいます。天照大神は驚いて天熊人命を遣わすと、そこには体のあちらこちらから五穀が生えた保食神の死体があり、その五穀を持ち帰り天照大神に献上します。五穀を献上された天照大神は、大いに喜び、これを入々の食料となすことを決め、田や畑に植えさせました。これが農業の始めであり、保食神は稻荷大明神として五穀を守護する神に祀られたという神話を舞い納めたものです。

演目2／神楽囃子とジャズダンスのコラボレーション

- (2) 出演者

◆岳神楽保存会
岳神楽は早池峰神社の奉納神楽で、五百年以上の伝統をもつ非常に古い神楽であるといわれています。また、修験山伏の影響を受けた祈祷の舞が神楽となったともいわれています。舞の中に、「能」大成以前の古い民間芸能の要素を残していることから、中世芸能の香りを伝える稀有な神楽として、昭和51年5月に国の重要無形民俗文化財に指定され、平成21年9月には、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。

- ◆スタジオ DANCE ONE

- ◆新☆男塾

◆盛岡市立高等学校男子新体操部（3年生）
熊谷 圭悟 吉田 朋起 大坪 宙斗 千葉 陸

▼「気仙町けんか七タ太鼓」	陸前高田市立気仙中学校
---------------	-------------

- (1) 演 目／「気仙町けんか七タ太鼓」

- (2) 出演者／陸前高田市立気仙中学校

気仙中学校1・2年生による「けんか七タ太鼓」の演奏。「けんか七タ太鼓」は約900年前から気仙町に伝わる郷土芸能です。気仙中学校では先輩方の伝統を引き継ぎ、練習に励み、けんか七タ祭りや中学校総合文化祭、地域の行事などで披露してきました。本年度で閉校となるため、気仙中学校生徒としての演奏は今回で最後となります。心をこめて一生懸命演奏します。

▼「ピアノ演奏」	古澤 蒼大
----------	-------

- (1) 曲 目／ポロネーズ第1番 作品26-1 嬰八短調（ショパン作曲）
ポーランドの作曲家。ポロネーズはポーランドの民俗舞曲です。副題がついていないポロネーズですが比較的人気が高く、コンクールなどでも演奏される機会が多い作品。力強さだけでなく中間部は特にショパンの叙情性を感じさせます。内容的にも高い楽曲です。

- (2) 演奏者／古澤 蒼大（大船渡市立越喜来小学校3年生）
年長からピアノを始める。2017年第10回エレーナ・リヒテル国際ピアノコンクール（小学生1～3年の部）第1位。第33回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール小学生中学年部門全国大会第5位（第1、2位該当者なし）他多数受賞。西村元希氏に師事。

▼「合唱」	大船渡市立大船渡中学校
-------	-------------

- (1) 曲 目／「つながる3曲 ～ほらね、群青 時代～」

- (2) 出演者／大船渡市立大船渡中学校2年生 55名
指揮者／高橋 秀治
ピアノ伴奏／（ほらね）伊藤 若菜
（群 青）佐藤 優衣
（時 代）木村 優心

私たち大船渡中学校2年生は、心を伝える合唱を目指し、一人ひとりの表現や表情に力を入れて活動しています。今回、歌わせていただく3曲には、喜びや哀しみ、仲間との絆、故郷への思いなど、震災を経験した私たちと重なる情景がたくさんつまっています。聴いてくださる皆さまの心が少しでも温まりますよう、心をいっぱいにして表現します。どうぞお楽しみください。

▼「合唱」	大船渡市立吉浜小学校
-------	------------

- (1) 曲 目／「ありがとうの花」

- (2) 出演者／大船渡市立吉浜小学校3～6年生 36名
指揮者／熊谷 輝子
ピアノ伴奏／菊池 聖子
毎年3、4、5年生で市内の音楽会に向けて2ヶ月程度歌の練習をしています。みんな合唱が大好きです。吉浜小学校の澄んだ歌声を会場に響かせたいです。

▼フィナーレ「岩手県民の歌」	全員
作詞／田原 耕二 補作詞／岩手県民の歌審査委員会 作編曲／中田 喜直	指揮者／太田代政男